

所 信

心を耕し、種をまく

～「畏敬の心と感謝の念」が満ち溢れた社会へ～

社 団 法 人 奈 良 青 年 会 議 所

2013年度理事長予定者 増尾 朗

【はじめに】

あなたは奈良青年会議所での活動で自らを成長させることができているでしょうか。運動を通じ地域に貢献できているでしょうか。JCでの経験があなたのご家族、職場、そして地域に良い影響を与え続けているでしょうか。青年会議所は明るい豊かな社会の実現のために存在します。言い換えれば、JCは社会を形作るあなたとあなたの大事な人々のためにあるのです。自己の修練や社会への奉仕を通じあなたが自らを明るく豊かにし、その灯りを周りの人々一人ひとりに灯していく。この積み重ねと広がりがJC運動であると私は考えます。

2004年7月に入会した頃の私は決して積極的な会員ではありませんでした。仕事と家庭とJCの間で、何をしているときでも中途半端な思いと、自分に対する焦りだけが募る日々を過ごしていました。そんな自分を変えてくれたのは、JCの先輩や仲間でした。非常に幸運なことに、私が悩んだ時には必ず誰かが引っ張ってくれました。そして、その人達はJayceeとしてだけでなく、社会企業家として、人間として心から尊敬できる人達でした。私はそんな先輩や仲間に出会いたい、もっとその人から学びたいという気持ちでJCに関わり続け成長する機会を失わずにすみました。私は自分の経験からJCは人とひととが磨きあうことで互いに大きく成長する、人づくりが最大の魅力であると考えています。私はいつも誰かにとって自分を助けてくれた先輩や仲間のような存在になりたいと思っています。そして、あなたにも誰かにとってそんな存在であって欲しいと思います。

【心を耕し、種をまく】

花の種を植えるとき、そのうち勝手に咲くだらうと冷たく硬い地面にばらばらとまく人はいません。土を耕し、一粒ひとつぶの種が花を咲かせてくれるように大事に地面に植えます。人の心も同じだと私は考えます。どんな貴重な体験をし、高度な知識に触れようとも、自らの心を耕していなければその体験や知識は自分の中に根をはらず、成長の助けにはならないのです。私は、心が耕された状態とは、自分の周り全ての人やものと自分がつながって生きているということを受け入れ、それに感謝している状態だと考えます。心が耕されることによって、自分と外界との殻をやぶり様々なことを受け入れそれを糧とし成長することができるのです。そして、耕された心に自らの志や夢の種をまくことで、

その種はやがて自らの成長とともに大樹へと育っていくのです。

奈良 J C 設立メンバーの一人で薬師寺第百二十四世管主であった故高田好胤先輩は生涯で 500 万人以上の修学旅行生に法話を授けられました。高田先輩は子ども達に仏様の心の種をまきたいという強い信念のもと法話を続けられました。ある時、高田先輩は涙が止まらなくなるほど幸せを感じ、そして気づきました。「これまで生徒の心に種をまくつもりで話をしてきたが、種をまかれたのは私自身ではなかったろうか。」「人と人のあいだは、一方的に教えたり、与えたりしているのではない。教えると同時に教えられているのであり、与えると同時に与えられているのだ。」 J C においては、毎年役職や立場が変わりますが、学ぶ立場に上下はありません。高田先輩が仰るように、私たちは皆互いに教えると同時に教えられているのです。

J C には心を耕し、互いに与え合うチャンスが数多くあります。辛いことや苦しいことがあるかも知れません。しかし、そのような経験も自らの心を耕す良い機会なのです。苦難を必死に乗り越えた時にこそ、つながりあう周りのもの全てへの感謝の気持ちが溢れ、人は立場の違いを超えて与え合っているのだということを心から理解できるのです。そして、そのような人を一人でも多く社会に産み出し明るい豊かな社会を創っていくことが J C の大きな使命なのです。

【愛郷心溢れる自立した地域の確立】

私は商売人の長男として現在奈良町とよばれる界隈に生まれました。古くからの商家が多く、幼少の頃は家の内外で働く大人の姿を間近に見て育ちました。その大人達は同時に近所の誰々の父親や母親であったりもしましたし、お年寄りとともに町内の神社のお祭りや地蔵盆といった行事の担い手でもありました。子どもにとって大人はとても大きな存在でしたが、決して別世界の住人ではなく大人も子供も地域社会を形作る一員でした。

今日の社会は便利で効率的になりましたが、社会の構成要素が分業化、細分化され世代間や地域の中での断絶が進んでしまっています。世代間の断絶により、子どもは大人という最も身近なロールモデルを失い将来の夢を描けず、大人は老いから目を背け経験の蓄積という宝物を見失っています。地域の中で人々の関係性が断絶されることにより、人々は自分が誰からも支えられず生きていると錯覚し、自分さえよければ良いという考えを持つようになります。そして、周りへの感謝を失った人々は住み暮らす地域への愛情をも失ってしまうのです。

私たちは断絶された世代間、地域の中におけるつながりを取戻し、子ども達が大人を見て将来の大きな夢を描ける地域、古くから蓄積されてきた知恵が世代を超えて活用される地域、そして、人々が互いにつながりあい、支え合う地域を創造しなければなりません。そのような地域では、周りの人々への感謝の気持ちが地域への愛情を育み、人々が互いに助け合い知恵を出し合い、自らが自分たちの地域を育てていく愛郷心溢れる自立した地域が確立されるのです。

【組織進化 - 会員拡大と指導力開発】

若いわれらの一節「若い我等の心を集め つくる集いに 未来をかけて J Cの仲間は皆信じあう」入会当初から私はこの詞が大好きです。常にこのような気持ちで集うことができる組織でありたいと心から思います。友人を心から信じ、同時に友人が信じるに足る人間に自らを成長させ続けましょう。

青年としての運動を40歳までの限られた時間で駆け抜け、バトンを次の世代に託していく私たちの組織にとって会員拡大は運動を継続していくための生命線です。そして、会員拡大は、J C運動を通じて培った皆さんの光り輝く灯りを他の人に灯す運動であることから、J C運動そのものでもあります。J Cは人づくりの団体です。私たちが灯りを周りの人々に灯し続けることで人づくりを続けなければ私たちの地域の未来はつukれないという気概をもって会員拡大に全員で取り組んでまいりましょう。

明るい豊かな社会を創造する目的で運動を続ける私たちは、地域の問題点を掘り起し、その問題解決に全力を注ぐ指導力を持った青年を一人でも多く生み出さなければなりません。指導力とは情熱だと私は考えます。無から有へ、方向感を失ったものに針路を与える、あるいは何かをもっと高いところへ持ち上げる。このように物事に大きな変化をもたらす原動力を与える情熱こそが指導力なのです。何かを成し遂げようとするとき手法に唯一の正解はありません。どんなに苦しくても失敗してもゴールを目指して周りを引っ張っていく。そんな力が指導力です。新しく迎い入れる仲間には事業への能動的な参画を通して力強い指導力を養っていただきます。

【運動の発信】

私たちはなぜ運動を情報として発信するため毎年工夫を重ねているのでしょうか。情報発信そのものが目的ではありません。私たちは運動を発信することで、その情報を受け取る人々の考え方や行動に影響を与えようとしているのです。情報の発信により市民意識の变革につなげ、明るい豊かな社会の実現に近づくことが最大の目的なのです。

地域を本当に変えようとするならば、J C運動を私たちだけの運動にとどめず、地域の方々とともに歩む運動にしなければなりません。そのためには、単に運動や事業の概要を情報として伝えるのではなく、なぜその運動や事業が我々の地域に必要なのか、どのような目的で行っているのかがしっかりと伝わる情報発信が必要です。

また、本年は運動の発信対象が大きく広がります。全国の仲間に私たちの運動を発信し続け、全国大会に向けての意識を高める最も効果的な手法の一つが広報活動です。全国の会員から、そして地域の方々からも奈良J Cの運動に対する期待が高まり、そして私たちの運動がすぐ手の届くところにあると実感していただけるような情報発信を展開いたします。

【全国大会開催の年を迎えて】

奈良青年会議所が初めて大会主管の立候補をした2006年から7年が過ぎました。大会主管の志を立ててからはさらに長い歳月を経て、ようやく開催年度を迎えることができました。その間、多くの先輩が招致に汗を流し、準備に歯を食いしばってこられました。私たちはここまでの道のりをともに歩んで下さった全ての先輩方、地域の方々への感謝の気持ちを新たに、その気持ちを大会を通じ、未来の奈良への責任果たすことで応えてまいります。

全国の同志を迎い入れる奈良のまちには、古くから目に見えないものを恐れ敬う心と自分の周りのもの全てに対する感謝の念が宿っています。それは古来、神仏と自然と人が共生し時を重ねてきたことで培われてきました。畏敬の心と感謝の念は、この国のはじまりの地、真に秀でた場所“まほろば”とよばれた奈良の地で生まれ、やがて日本人の美しい精神性の礎となりました。

現代の日本では、自分さえ良ければそれで良いと考える利己主義や、夢や希望を抱くことなく、今さえ楽しければよいと考える刹那主義が蔓延しています。それによって、人々のつながりが失われ、疎外感や孤立感が高まり、大切に受け継がれてきた精神性も同時に失われつつあります。私たちは、日本人の美しい精神性を育んだ“まほろば”の地に生きる青年として、失われつつある精神性をもう一度人々の心に呼び覚まし、日本国中を「畏敬の心と感謝の念」が溢れる社会にしなければなりません。

私たちは、招致の段階から、全国大会はあくまで手法であり、運動の通過点であると先輩方に教わり、新たな仲間はその想いを伝えてきました。本年、私は皆さんとこのことを証明しなければなりません。

皆さんは本気でご自身を変えようと思っっているのでしょうか。社会企業家として本気でこのまちを変えようと思っっているのでしょうか。もし、そうであるならば来年の全国大会は皆さんのJC生活のなかで千載一遇、一生に一度あるかないかのチャンスなのです。本気でやれば、必ずご自身も、職場も、まちも皆さんが思い描く理想のものに大きく近づけることができるのです。本気でやれば必ずできます。

地域を一年で大きく変える最大のチャンスの年を迎えたのです。私たちが想いをもって接してきた場所が全国のメンバーにとって特別な場所となり、私たちが積み上げてきた運動が記念事業をはじめとする全てのファンクションで大きな花を咲かせるのです。大会を通じて行うこと全てが今後の奈良JCの新たなマイルストーンとなるよう、全ての事業を研ぎ澄ませましょう。大会開催年度に行われた全ての運動、活動が良い見本として今後の奈良JCに受け継がれていく。そのような1年にすべく全力を尽くしてまいります。

【おわりに】

JC運動はJCという組織のためにはありません。あなたを通じて広がる世界を明るく豊かにする挑戦なのです。それゆえに我々の運動は地域やあなたの周りの人々と

しっかりとつながっていなければなりません。だからこそ、運動の主人公であるあなたがどうしても必要なのです。一年後のあなたを想像してみてください。一年前より深く耕された心を持ち、大きく成長した自分、より大きな志の種を胸に宿した自分、そして、そんなあなたがより良いものに変えていく職場、家族、地域…。大きな山を前に頂上の景色を想像しワクワクする気持ち、この想いが自分と周り、そして地域を必ず変えていきます。遠くない将来、私たちはその山の頂上に立っているのです。一年間、あなたの想いや夢をしっかりと背負い、あなたの仲間を一人も後に残すことはありません。

目に見えないものを畏れ敬うことで自分を律し、周りのもの全てに感謝の念をもって生きる。この精神は私たちのまちに住み暮らす全ての人の心に宿っています。この精神を私たちは運動を通じ体現し、私たちのまちの生きた哲学として広く世の中に発信しなければなりません。私たちが全国大会奈良大会に真剣に向き合い、我々の運動の全てを投じ、真正面からぶつかることで、私たちのまちは畏敬の心と感謝の念で溢れ、日本国中にその灯りが灯されるのです。